

会 議 録				
平成 25 年度第 4 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 25 年 8 月 28 日 (水) 午後 2 時 00 分～3 時 30 分	場 所	小金井市第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委 員	本川議長、伊藤副議長、倉持、小林、佐野、田尻、樹、中村、本多、松田 各委員		
	その他	西田生涯学習部長、天野生涯学習課長		
	事務局	伊東生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0 人
傍聴不可 ・ 一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 協議事項				
(1) 関東甲信越静社会教育研究大会について				
(2) 第 5 ブロック研修会について				
(3) 平成 25 年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会について				
(4) その他				
2. 報告事項				
(1) 第 2 次小金井市生涯学習推進計画の実施状況及び方向性調査について				
(2) 都市社連協理事会について				
(3) 視察研修について				
(4) 提言の提出日について				
(5) スポーツ祭東京 2013 について				
(6) 「(仮称) 貫井北町地域センター図書館分室の運営体制について」の答申について				
(7) 「(仮称) 貫井北町地域センターの運営等について」(公民館)の答申について				
(8) (仮称) 貫井北町地域センター(図書館・公民館)の事業運営について				
(9) その他				
(本川議長)				
それでは、始めさせていただく。まず、資料確認をお願いします。				
(天野生涯学習課長)				
では、配付資料の確認をさせていただく。まず、関東甲信越静社会教育研究大会開催要項、それから、第 5 ブロック研修会事業計画書、平成 25 年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会実施要項、平成 24 年度第 2 次小金井市生涯学習推進計画の実施状況及び方向性調査結果、「小金井市生涯学習支援セ				

ンター機能」の実現に向けて、(仮称)貫井北町地域センター(図書館)の事業運営について、(仮称)貫井北町地域センター図書館分室の運営体制について(答申)、(仮称)貫井北町地域センター(公民館)の事業運営についてと(仮称)貫井北町地域センター運営等についての答申がセットになっている。それから、委員の方へのみ配付しているものとして、平成24年版小金井の教育、2013青少年のための科学の祭典のチラシ、みんなの生涯学習ナンバー112、はなみずき第51号、小金井月刊こうみんかんナンバー422から425、小金井市教育だより、平成24年度小金井市公民館事業のまとめ、平成25年第1回社会教育委員の会議会議録、最後に、市民体育祭開会式の案内状と実施要項になる。配付資料は以上である。配付漏れ等あるか。

(本川議長)

不足など気がついたら事務局のほうにおっしゃっていただきたい。

それでは、平成25年度第4回社会教育委員の会議を開会する。

ご挨拶させていただく。本当に今年の夏は、酷暑、猛暑、何と表現していいかわからない。あと、ゲリラ豪雨。近年にないような局地的な色々なことがあり、自然の力の大きさ、恐ろしさを本当にひしひしと味わった方たちもたくさんいらっしゃったのではないか。幸いにして私たちは平穏無事に生活させていただいているが、色々なところに目を向けながら社会教育委員としての目を養っていけるといいと思いながらいる。あっという間に、私と伊藤委員、小林委員、倉持委員が任期満了ということで、6年間させていただいた。いろいろなことで本当にたくさんの学習を、いい歳をしていながらたくさんの学習をしたなと思わせていただいている。任期は終わるが、この社会教育委員として培ったいろいろなことを今後活かさせていただければと思う。私、4年間も議長をさせていただいて、力不足なところはたくさんあったが、皆様のご協力で何とか、今日終われば務め上げるということに、本当に感謝を申し上げる。本当にいろいろありがとう。また、事務局も入れかわりが大変激しくて戸惑っていたが、今、少し落ちついてきたかなと思う。皆様から申し送り事項というのをいただいているので、まとめたものをどこかでお渡しさせていただきたい。今日まだ言い残したことがある方は、どうぞおっしゃっていただきたい。今後のことで、倉持委員が来期、第3次生涯学習推進計画というものの見直しというか取り組みをされるということで、学識経験者としてお残りいただけるという、大変心強いことだと思う。さっき幹事会でいろいろ要望をお出ししたので、きっとすごい力になってくださると思う。よろしく願います。今期でおやめになる方も何人かいるし、それから残ってまた引き続きやってくださる方もありますが、それぞれのお立場でどうぞ、全力投球というところちょっと語弊があるが、無理をしないでいいというわけでもないなので、ちょっと無理をして、いい関わりの仕方をしていただきたい。やらないで済むと思えばしないで済んでしまうこ

とというのもたくさんあるわけであるから、その辺のところは、いまさら申し上げるのも本当に口幅ったいことであるが、くれぐれもよろしくお願ひしたいと思う。ともかく伊藤さんも副議長として本当に支えていただけてありがとう。皆さんのお力で最終の社会教育委員の会議を無事終了させたいと思う。本当にありがとう。

ということで、前置きが長くなったが、協議事項に入らせていただく。資料があるが、関東甲信越静社会教育研究大会についてということで、課長、お願ひしてよろしいか。

1. 協議事項

(1) 関東甲信越静社会教育研究大会について (天野生涯学習課長)

では、関東甲信越静社会教育研究大会、今回は栃木で行われる。こちらは毎年2名の方にご出席いただいている。本来であると会議の中で出席者について協議していただきたいということであるが、こちら、開催のほうは11月14日と15日ということで、第27期の方が対象となる。引き続き委員を務めていただける方については参加の希望等を9月2日までに事務局にお寄せいただきたいと思う。この場で協議というわけにもいかないと思うので、事務局に希望を提出していただけて、足りないということであれば、またどなたかにお声がけするかもしれないし、逆に3名以上希望があった場合は調整をさせていただきたいと思うので、よろしくお願ひする。新規の委員の方については、こちら、本部への提出期限が9月13日までに申し込みということになっているので、次の第1回の会議で諮るわけにもいかないということがあり、昨日の教育委員会において次期の27期の委員の方の委嘱についてご承認をいただいたところであるので、委嘱状の交付の前ではあるが、このような会議があるということを知らせていただけて、希望を問うような形をとらせていただく。その結果と皆さんからいただいた結果をつき合わせて3名以上いるようなら、先ほど申したとおりちょっと調整をさせていただくということを進めたいと思うので、まずは開催要項をお目通しいただけて、出席可能な方、希望される方は事務局のほうまでご提出していただくようお願ひする。こちらについては以上である。

(本川議長)

それでは、そのような方法でよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

(本川議長)

では、結構なのでよろしくお願ひする。

(2) 第5ブロック研修会について

(本川議長)

続いて、(2)の第5ブロック研修会について、お願いします。

(天野生涯学習課長)

では、こちらでも事務局のほうからご説明させていただく。今回資料で配付させていただいた「ブロック研修会事業計画書」をご覧いただきたいと思う。片面1枚の資料である。こちらは、毎年原則全員で出席しているものであるかと思うが、こちらはまだ出欠の連絡というのはこれから先になるが、取り急ぎ、事業内容、開催場所等について計画が送られてきたので配付したものである。こちらは、次の第27期の1回目になる10月16日の会議の中でまたお話しさせていただきたいと思うので、今日のところは参考に配付したということでお目通しいただきたいと思う。以上である。

(本川議長)

では、そのようなことでよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

(本川議長)

では、よいということで、事務局のほう、よろしくお願いします。

(3) 平成25年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会について

(天野生涯学習課長)

では、こちらでも事務局のほうからご説明する。今回配付したのが、平成25年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会の実施要項になる。こちらでも、開催日については平成25年12月7日ということで、次の第27期の方にかわってからということになるが、申し込みの締め切りが9月4日になっていることから、今回引き続き委員となっていただけの方については予定のほうを入れておいていただきたいと思う。こちらは先ほどの関東甲信越静岡の研修会とは違い、原則全員参加という形で毎年お願いしているものである。こちら9月4日までに幹事市さんのほうにメールで回答しなければいけない関係があるので、9月2日までに出席の確認ということで、行けるかどうかの連絡を事務局のほうまでお寄せいただきたいと思うので、よろしくをお願いします。以上である。

(本川議長)

今現在、在任中の方については、事務局から何と何、というようなことで一度お尋ねするようにしていただきたい。今お話を伺ったが。

(天野生涯学習課長)

では、改めてメールでまた連絡する。

(本川議長)

メールまたは書面でしておいていただきたい。そうしないと、ちょっとこっちからお返事をするのはやりにくい部分があるので、願います。

(天野生涯学習課長)

昨日承認された新しい委員さんの方にお送りする通知に、出欠を確認するためのフォーマットをつけているので、同じものをお送りさせていただいて回収するという形をとらせていただきたいと思いますと思うので、よろしく願います。

(本川議長)

そのほうがはっきりするかと思うので、よろしく願います。それでは、今の件についてもそのとおりでよろしいということで進めさせていただく。

(4) その他

(本川議長)

(4) のその他については、科学の祭典についてちょっとお伺いしたいことがあるし、ふれておきたいこともある。担当の伊藤委員、願います。

(伊藤副議長)

では私のほうから、皆さんのお手元のパンフレットをごらんいただきたい。今年も「どこでも学習、いつでも科学」という統一テーマで、三者、同じブースを使ってやる状況になると思う。場所は昨年と同様、S棟の1階の105という教室になる。私どもと図書館は教室の中で、それから公運審のほうは去年と同様に入り口のところで、ホールのところ、「昔遊びの科学」というテーマで公運審さんはおやりになる。ちなみに私どもは、前に皆さんにご案内したようにクルクルやるやつ、今日これから作業していただくが、キューブではない、三角形になる。本当の名前はフレクサゴンと言うが、分かりづらいから私はテトラという言い方をしていたが、クルクル絵が、色が変わるというものを子供たちと一緒につくってみようということである。このチラシの裏側の左側のちょうど真ん中辺に、カテゴリーとしては幼児から一般対象というところの中で、大体中間のところ、クルクル回転して色が変わる不思議なテトラをつくと書いている。正式名称はフレクサゴンと言うが、形がテトラに似ているから簡単にテトラという言い方をしたが、それをやる。もちろんこれ以外に展示物は、過去に展示したものであるが、ヘロンの噴水とかアルキメデスのポンプとか回転うずまきとか、今年は富士山が文化遺産に認定されたということのを記念して、富士山のジオラマ、5万分の1。大したことない、5万分の1はこんなもの。ジオラマと、あとイラストとペーパークラフトで、富士山が現在のような形になるまでの、今から何億年前の状態とか現在の状態まで大きな噴火が3回ぐらいあって現在のような形ができ上がったが、それをイラストで説明して、さらに、その中の構造がどうなっているかというのはペーパークラフトでもって、富士山を真っ二つにした状態で、溶岩がこんな形になって富士山ができ上がっ

ているということ、要するに視覚的に、目で見てわかりやすく富士山の形というのはこうなったということもあわせて展示してみようかと思っている。昨年と大幅に変わっているということは特になく、ただ、昨年は宇宙のことをやったが、今年は足元の富士山のことをメインテーマにしてやってみようと考えている。展示のことはそんなことである。それで、ちょっと皆さんにお願いがあって、この場で決めていただければ大変ありがたいが、前日土曜日、準備がある。事前の準備、会場は私どものほうはそんなに時間はかからないと思うが、ただ、ミニシンポというのがある、学芸大の先生のお話とかがあるかと思う。あと、全体の会場運営に当たってのこともあるので、そういう話に参加するのが土曜日。当日の日曜日は、当然ブースの中でいろいろお手伝いしていただきたいと思うが、さらにそれが終わった後、反省会がある。どうだったかこうだったか、中学生のボランティアがよくやってくれたとか、高校生のボランティアがよくやってくれたとか、あるいは簡単な、お線香で手を火傷したとかそんな話もあるかと思うが、そういった反省会の中で全体の今年の展示の流れがどうだったかという、それを来期にどうつないでいくとかいうことを踏まえての反省会がある。さらに、それが終わった後、懇親会がある。これは有志というか、全員強制となると、とてもじゃないが、各団体の中で特にお出になれる団体の方が出席していただく。私どもも過去ずっと5回出席している。今年も出席したいと思う。それで、ちょっとお願いというのは、反省会とか懇親会に出席していただける方、もちろん当日の、まず最初は当日の展示、ブースのほうにご出席いただけるかどうか、ちょっとその辺を確認させていただきたい。どうしても都合が悪い方だけ手を挙げていただければと思う。弁当の手配の都合もあるので。

(本川議長)

前日準備は必要か。シンポジウムは聞いてもらいたいのか。

(伊藤副議長)

聞いてもらいたい。

(本川議長)

シンポジウムが1時からだったと思う。

(伊藤副議長)

1時からである。たしかS棟の405かな。

(本川議長)

いや、401か410か、大きい部屋である。それで、今年は高校生のボランティアが土曜日は学校があって出てもらえない。だから、全部自力でやらなければいけないので、少しでも手があったほうがありがたいと思う。

(伊藤副議長)

要するに、部屋の中の机を片づけないと会場づくりができないので、どちら

かという、汗をかく仕事。

(本川議長)

一番、力仕事。

(伊藤副議長)

セッティングするのは、ただポンと置くだけだから、大した手間ではないが。

(本川議長)

皆さん、お手伝いいただけるか。

(伊藤副議長)

では、当日は全員出られるか。では、そのように。

(松田委員)

前の日がだめ。

(伊藤副議長)

それは結構である。だから、当日は全員参加ということで。なぜ当日にこだわるかという、弁当の都合があるので。

(本川議長)

一日中という大変かもしれないので、午前とか午後とか言っていてもらっても構わないと思うが、お弁当はどちらに出ても申し込んでおく。

(伊藤副議長)

お昼の時間帯でラックしていただければ。

(佐野委員)

市民体育祭の開会式といつも重なる。それ、申しわけないが。

(伊藤副議長)

では、それにお出になって、後からおいでいただきたい。それで結構である。

(本川議長)

委員みんなそうである。

(伊藤副議長)

我々全員そうである。同じ条件であるが、だから私はこっちの準備があるから出られないともう連絡してある。そういうことで、当日は皆さん全員参加していただけるということで、ひとつよろしく願います。土曜日の準備のほうは、会場の机の片づけとか部屋の隅に寄せて、こんな形で机を並べかえたりすることがあるが。

(本川議長)

佐野さん、前の日はどうか。

(佐野委員)

時間がうまく都合つけば。

(本川議長)

ミニシンポジウムが終わってから準備に入るのか。

(伊藤副議長)

準備は大体2時ぐらいからになる。1時からシンポが始まるから、大体シンポが1時間半ぐらいかかると思う。それが終わってから会場の設営であるから。

(天野生涯学習課長)

一応、前日の準備は2時から大会準備となっている。

(田尻委員)

申しわけない、土曜日はP連のビーチボールの大会があるもので、午後からずっと、申しわけない。

(本川議長)

当日は、田尻先生は出席できると。

(伊藤副議長)

お待ちしているので、お顔だけお出しいただきたい。

(本川議長)

小林さん、大丈夫か。

(小林委員)

はい、前日は丸々大丈夫で、当日はお昼まで。午後から予定があるので申しわけない。

(本川議長)

倉持さん。

(倉持委員)

私も前日まで合宿なので、日曜日は午前中参加できればと思うが、前日肉体労働できなくて申しわけない。日曜日は何時に行けばいいのか。開会式は9時半と書いてある。開場10時。

(本川議長)

開会式も見ていただけると、学大のいろんなことがわかると思うし、運営もわかると思うので、見聞を広めるという意味で見ていただけるといいかと思う。

(倉持委員)

では、遅くとも10時には行けば。

(本川議長)

そうである。もし10時にいらっしゃるなら直接部屋にいらしていただくのがいいかと思う。それまでは、基本的には部屋には入れない。

本多さん、大丈夫か。

(本多委員)

はい、両方。

(本川議長)

中村さんはいかがか。

(中村委員)

私、土曜日行けると思う。

(本川議長)

日曜日は。

(中村委員)

日曜日は午前中だけで。

(本川議長)

樹さん、どうか。

(樹委員)

私、土曜日は婦人検診でいつも、毎年毎年ここに検診が重なって申しわけない。日曜日はどちらでも、午前でも午後でも大丈夫。

(本川議長)

大丈夫か、松田さん。

(松田委員)

日曜日は午前でも午後でもどっちでもいい。

(伊藤副議長)

そんなこと言ったら一日。では、今、整理する。土曜日おいでいただける方は小林さんお一人。あと佐野さんは2時ごろからか。

(佐野委員)

土曜日、ちょっと今この席では言えない。

(伊藤副議長)

あと、もう一人ぐらい欲しい。

(本川議長)

本多さんが土曜日。

(伊藤副議長)

申しわけない。強い味方ができた。

(本川議長)

中村さんも大丈夫。

(伊藤副議長)

十分である。4人いれば万々歳。土曜日はオーケー。それで、シンポもおいでいただけるか。

(中村委員)

何時からか。

(伊藤副議長)

1時から。簡単な講演会みたいなことをやる。日本の子供は理数系が弱いとか、子供にどうやって興味を持たせるか、理科をどうするか、そういう少し堅いお話がある。では、シンポもおいでいただけるかと。

では、ちょっと確認する。土曜日は私と小林さんと本多さんと中村さん。目

安は、私は3時に引き上げたい。私は何が何でも3時には引き上げたいので、人数が多ければぱっと片づく。日曜日当日であるが、午前中の方は中村さんと小林さん。

(本川議長)

倉持さんと。

(小林委員)

午前中しか申しわけない。

(本多委員)

申しわけない、私、ちょっと遅刻で午前中から。

(伊藤副議長)

とにかくおいでいただけると。

(本多委員)

午前午後、片づける。

(伊藤副議長)

では、本多さんは線を全部引いておこう。

(松田委員)

では、午後がいいか。

(伊藤副議長)

松田さん、午後。樹さんはどうするか。

(樹委員)

では午後で。

(伊藤副議長)

午後でよろしいのか、午後は時間長いが。

(樹委員)

大丈夫。

(佐野委員)

午後というのは懇親会までか。

(伊藤副議長)

とりあえず今は4時までのことを。この後、反省会がある。田尻先生はいつごろおいでになるか。

(田尻委員)

午前中になる。

(伊藤副議長)

承知した。

(佐野委員)

私、午後から。

(伊藤副議長)

当日ね。

(佐野委員)

はい。

(伊藤副議長)

これで10人。

それで、今度、日曜日当日であるが、反省会と懇親会。反省会は4時半ぐらいから大体1時間ぐらいで終わると思う。全体の、警備の話とか会場運営の話とか、よかった悪かった、いろいろ反省会。

(本川議長)

次回につなげるためにも出ていただきたいと思う。

(伊藤副議長)

ぜひ出ていただいたほうがよろしい。

(本川議長)

いろいろお考えになる材料になるかと思う。

(本多委員)

私は反省会までで。懇親会はちょっと。

(伊藤副議長)

ありがとうございます。もう一人ぐらい欲しい。中村さんは午前中か。

(中村委員)

私、ちょっと午後用事がある。

(本川議長)

樹さん、どうか。

(樹委員)

はい。

(伊藤副議長)

反省会ね。懇親会はどうか。

(樹委員)

ちょっと懇親会までは。

(伊藤副議長)

では、懇親会はどうするか。

(本川議長)

懇親会はそのときでも大丈夫だから。佐野さん、反省会、懇親会。

(佐野委員)

学長にちょっとお会いしたいので、懇親会は出る。

(本川議長)

学長が来るかどうかわからない。

(伊藤副議長)

学長はちょっと無理かもしれない。

(佐野委員)

前回お見えになった。挨拶されていた。

(本川議長)

挨拶はいらっしゃるかもしれない。わからない。

(伊藤副議長)

それで実は、こんなこと私が申し上げるのも何だが、生涯学習部は一応主催者ということになっている。

(天野生涯学習課長)

小金井市が主催という形。

(本川議長)

教育委員会がなっている。

(伊藤副議長)

教育委員会の関係で、事務局のほうからもどなたかおいでいただけると、懇親会に参加していただくと大変よろしいのではないかと思うので。

(天野生涯学習課長)

私が、実は同じ日に市民体育祭があつて、そちらに三宅村の剣道連盟がいらつしゃる。竹芝栈橋まで送迎しなければいけない関係で、科学の祭典自体、私、多分ほとんど顔を出せないのかと思っているので、申しわけない。

(伊藤副議長)

やむを得ない。

(西田生涯学習部長)

私のほうも、国体の関係で今非常にばたばたしていて、今からお約束ができない状況である。申しわけない。

(伊藤副議長)

では、当日お出になれるようなら顔だけ出していただければ。

(西田生涯学習部長)

そういう感じをお願いしたいと思う。

(伊藤副議長)

そういう形でひとつよろしく願います。では一応、科学の祭典のことについてはこれで、私のほうは以上である。

(天野生涯学習課長)

事務局から補足とお願いをさせていただきたい。まず1点お願いから。今、急遽お配りしたチラシのほうであるが、こちらコミュニティ文化課のほうから依頼があったもので、事前に議長にだけお話しさせていただいてご承諾いただいていたが、はけの森美術館のほうで企画展示が行われると。科学とちょっと関連したような内容であるということで、広く周知したいということで、科学

の祭典でチラシを配ってくれないかという依頼がきていた。議長に相談させていただいて、ブースに置いて構わないということなので、このようなチラシを置かせていただくので、よろしく願います。それと報告であるが、社会教育委員のブースがどうこうということではないが、明日、定例記者会見が小金井市であるが、そのときにあわせて科学の祭典についても記者会見の中でご報告させていただくので、大手の新聞社なんかもあるので、記者会見の大体二、三日後ぐらいに報道されることが多いので、もしかするとそのぐらいの新聞に取り上げられることがあるかもしれないので、ご報告である。もう一点のご報告が、ジェイコムさんごらんになれる方はぜひごらんになっていただきたいが、9月5日木曜日の11時からの番組で科学の祭典について取り上げられる予定になっている。こちらは科学の祭典の実行委員会のほうの、鹿島さんなのかかわからないが、実行委員会のほうで今だれが出るかということで調整しているようなので、こちらもごらんになれる方は見ていただければと思う。以上である。

(本川議長)

ありがとうございます。何かご質問あるか。なければ、今、一応協議で名前その他いただいているのでよろしく願います。当日がお天気だといい。

2. 報告事項

(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の実施状況及び方向性調査について

(本川議長)

では、報告事項に移らせていただく。(1)第2次小金井市生涯学習推進計画の実施状況及び方向性調査結果についてということで、願います。

(天野生涯学習課長)

では、事務局から報告させていただく。第2次生涯学習推進計画に掲げられている各事業について、平成24年度の実績及び実施内容を関係各課に評価した結果である。こちらは平成25年2月20日に開催した平成25年度第8回社会教育委員の会議において、平成23年度の実績について報告させていただいたところであるが、今回はこれとほぼ同じ内容で、平成24年度の実績について評価をしたものである。前回報告した際に、目標を達成して終了した事業について廃止という表現をしていたが、廃止という言葉を使うと不要となったようなイメージがあるので、達成もしくは終了としたほうがよいのではないかというご意見、ご指摘をいただいていた。それを踏まえて今回はそのような事業については終了という形で掲載している。また、集計の方法として、同じく前回の会議での議論を参考にして、基本項目と事業との関連がわかりづらいというご意見、ご議論をいただいたところであるので、今回から基本目標ごとの事業数がわかるような形に集計方法を改めている。調査内容としては、今回は

掲載事業204事業について、平成23年度と平成24年度の実績比較をしている。それぞれの項目で2段目にある実績値という表がその集計結果になっている。あわせて平成25年度の方角性についても、各課の考える方角性ということで調査を行っており、そちらは3段目にある方角性という表がその集計結果になっている。実績の比較、方角性ともに、詳細については2枚目以降に添付した事業ごとの調査結果をごらんいただきたいと思う。資料の説明としては以上であるが、本日は報告事項ということで議題とさせていただいたが、今後、この結果なども参考にして延伸期間中の見直し、それから第2次生涯学習推進計画の評価について、また将来的には第3次生涯学習推進計画の素案作成へとつなげていきたいと考えているので、よろしく願います。報告は以上である。

(本川議長)

何かご質問あるか。なければ今後どうぞよろしく願います。

(2) 都市社連協理事会の報告について

(本川議長)

それでは、(2)、私と事務局で伊東さんが出席している。7月25日の15時から羽村市生涯学習センターゆとろぎというところで行われた。報告事項は、全国社会教育委員連合についてということと、関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会における分科会事例発表についてということである。協議事項としては、長い名前もついているが、平成25年度の東京都市町村社会教育委員連絡協議会ブロック研修会についてということと、それから同じく交流大会、前回京都であったように社会教育研修実施要項についてということである。それから、東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰規定の改正についてということで、今回推薦者が任期の長い方が1人ということで、承認を受けた上で表彰するというので、羽村市のどなたかが、今度の会議のときに表彰されることになる。あとは特に、いろいろな、今度この改正があったので、前は大分もめたが、今回は比較的スムーズに粛々と終わった。以上報告である。何かご質問あるか。

(3) 視察研修について

なければ、次の視察研修についてということで、本多さんにお願いしていたところ、大変立派なものをつくっていただいたので、本多さん、説明していただけるか。

(本多委員)

7月22日火曜日、8時半時間厳守で出発した。11名の出席で時間も道もスムーズに行き、バスの中では今後の27期に対しての申し送りを話し合いながら有意義に会議を進め、無事到着。写真を私なりに作成しながら感じたのだ

が、建物の中がきれいであった。今回はカメラを持たずに行ったので見落としなのか、今回は建物全体がきれいにリニューアルされたようだった。隅々まで掃除が行き届き、清潔さをすごく感じた。生徒たちは朝から出発していた。私たちが独占して中を闊歩し見学させていただいた。今年は展望台のドームの中がゆっくり見られたということもあって、私なりに有意義な経験をさせていただいた。食事も盛りだくさんで、家族にこの新メニューをまねしたいという声が出ていた。新鮮さもあり、野菜がおいしかった。「今年は鹿が出て、敷地内で栽培している野菜が食べられる被害があり大変だった。近隣の川上村のほうから栽培されたもので賄い、本日の皆様のメニューにも入っている。」と山荘の方から後で聞いた。子供たちが帰らず会えないのではと後を追った。田尻委員のアドバイスもあって近道をして、ようやく会えたときは、歓声があがった。小金井市の生徒たちが整然と並んでいる姿を撮りたかったが、顔が写ることがまらずいと、記念碑の前にいる姿を遠くから撮影したのが唯一の思い出の一枚になった。こんな感想である。何か補足があったらよろしく願います。

(本川議長)

本多さんにこんな素敵にまとめていただいて、よりよく見える。この件については児童たちの行っている間に伺わせていただきたいという願いを田尻先生がいろいろコーディネートしてくださって実現されたということで、本当に皆さんのお力をいただきながら一つ一つやった。先生、その後何かあるか。

(本多委員)

子供たちがどんなことをしたか、ちょっと補足していただきたい。

(田尻委員)

本校は8月5日に行ったが、7月22日、食堂で食べたときに、あの広いところの半分を使って本町小の子供たちが食べていた。本町小は2クラスなので、あと職員入れて80名ぐらいなので半分から向こうなのだが、うち(三小)は総勢150名なので、あそこ全部のテーブルを使って食べた。2日目だけちょっと天気がよくなって、1日目はバスで降りてそのまま飯盛山まで上がって、天気はよかったが頂上に上がってから霧が結構出ていて大パノラマは残念ながら見えなかった。子供たちに見せたかったのだが。それでも達成感を、子供たちは登り切ったという感想をたくさん述べていた。2日目はとにかくハイキングでずっと歩いて、降ったりやんだりの中を、森の中をずっと歩いて。八ヶ岳ふれあいセンターを見学、そこで笹笛教室をやっていた。そこに子供たちが結構興味津々で何人か、本当にもう20分ぐらいの短い時間だったが、子供って覚えるのが早い。その後、帰りに水源林というところを、1時間ぐらい本当に森林だらけのところを通ってくるのだが、そこに生えていた笹を休憩時間にとって鳴らす。うまい。静かな中にその笹笛が響く、何とも言えない音色で。子供というのは本当にすぐ覚えるものだと思った。すごくいい一時であっ

た。3日目は農業実践大学校、長野県になるが、ちょうど八ヶ岳の反対側の原村というところにある。そこで午前午後体験をする。午前は森林体験。森の中で道路をつくる。チップを運んで敷きつめながら、あと大きい石があるとそれを掘り起こす。最初は嫌がっていた、「なぜこんなことするんだ」なんて言っていた。ところが、だんだんおもしろいということで、我先にとスコップで掘り上げたり運んだりする。その後、担当の人に森林のいろんな話をしてもらった。人間の生活の営みの中で森林がいい働きをするということ。緑のダムとよく言われるが、これは水をためたりする。あとは、そのところに川が流れているが、この川が何と天竜川に注ぐということを知って、すごいなど。大門川といって、その山荘の近くに流れている。あの川は富士川に注ぐ。山奥深いところの川がああやって太平洋に流れていくんだなど。午後、8つのコーナーでいろんな上級の森林の状況とか炭焼きとか酪農とかいろいろ、自分で選んで体験した。酪農では800キロ近い牛の乳しぼりを十何人、8リットルでバケツいっぱい、本当にたくさん生の乳を絞って、1人の男の子は、「君は本当に上手だね。ぜひ酪農やってくれ」と言われた。本当に自分で選んでやったから。薪割りもやった。日ごろのストレスを発散できたようだ。本当にいろんな意味で子供にとっては貴重な体験になった。最初の1日目の出発式を学校でやるのだが、あまり元気がなかった。本当に大丈夫かなと思ったが、帰ってきて最後に閉校式やったときは本当に顔つきが変わっていた。

(本多委員)

生徒の各部屋に班割があって、それぞれの仕事がきちっと決まっている。役割表、これは写真に撮れず、名前を隠して撮ったが、3日間で仲間意識が深まったのであろう。

(田尻委員)

そうである。それぞれ役割を果たさないと気持ちよい生活を送れないので。最初なかなか叱られっぱなしで、でも、だんだん慣れてきて、4日目は。子供って体験ということいろいろなことを吸収して成長していくということを改めて感じた。ほかの学校も同じようなことで、とても成果が上がったという話を聞いている。

(本川議長)

子供たちの生活をかいま見るといふところまではいかなかったが、部屋を見せていただいた。いい体験をさせていただいたと思う。子供たちを連れていくというのは、その前の段階の本当に細部にわたる準備というのが大変で、きっと校長先生方、気の休まる時がなく、夜中も眠れなかったのではないかと思うが、何事もなく、私たちもいい体験をさせていただいたということで、一つ、清里へ行くだけではなくて、付加価値がついたことで大変ありがたかったと思っている。ありがとう。本多さんもこんな立派な。

(本多委員)

もう自分の好みでつくってしまった。

(本川議長)

もし時間があれば後で皆様のご感想などをお伺いしたいと思うが、一応報告事項を終わらせてしまう。

(4) 提言の提出日について

それでは、(4)の提言の提出日についてということであるが、この緑の表紙、最終的に皆様にお見せしたものを、文言を変えるのではなくて、でこぼこを直すとか、頭をそろえるとかいうことで整理させていただいたものがこれである。結果的には、教育長のご都合、それから事務局、図書館、公民館、社会教育委員の会議の代表者という形で時間を調整して、今度の30日の4時に教育長にお渡しすることにした。本来であれば皆様にお出になっていただきたいところであるが、全部で30名からになってしまうので、失礼して代表者でということにさせていただく。立ち会うのは課長か。

(天野生涯学習課長)

はい、立ち会う。

(本川議長)

あと部長は？私ちょっとそこら辺把握してないが。

(天野生涯学習課長)

事務局は私と担当の伊東とで考えてはいたが。

(本川議長)

いかがか。

(西田生涯学習部長)

基本的には事務局で立ち会わせてもらって、教育長へという考え方でやっている。

(本川議長)

それでよろしいか。

(西田生涯学習部長)

それで全然問題ない。

(本川議長)

わかった。なので、各機関で2名ずつ、計6名で教育長にお渡しするという形をとらせていただくので、申しわけないがご了承いただきたい。

(5) スポーツ祭東京2013について

それでは、次に進ませていただく。(5)のスポーツ祭東京2013についてということで、課長のほうからよろしいか。

(西田生涯学習部長)

国体推進担当課長が今日公務により欠席のため、私が代理で説明させていただく。スポーツ祭東京2013についてご報告する。今回はスポーツ祭東京2013 炬火・採火式についてご報告する。開催日時と場所については8月3日土曜日、小金井市総合体育館中庭において開催した。この事業は、スポーツ祭東京2013 小金井市実行委員会が主催し、企画運営を地域スポーツクラブNPO法人黄金井倶楽部に委託をして実施したものである。内容であるが、午後6時から開始して、オープニングとしては小金井第二中学校のOBを中心とした小金井吹奏楽団GREEN'Sによる演奏を行った。その後、主催者側の実行委員会の紹介、来賓の紹介等を行っていき、実行委員会を代表して小金井市長から挨拶をした。次に、採火式に移り、小金井市の競技種目である弓道とバスケットボール、その競技の代表者による採火の際に、こういう木で火をおこす昔ながらの方法であるが、そういう方法で行った。ハプニングがあり、なかなか火がつかなかったということであったが、昨日、教育委員会で報告したときには、逆に火のありがたさがわかるのでよかったのではないか、今はライターやガスですぐ火がつくが、昔はこんなに大変な思いをして火をつけていたということが子供たちにもわかったので、それはそれで、ハプニングではあったが、なかなか火が起きなかったということもあったが、最終的には無事採火することができた。採火した火についてはトーチに移して、スポーツ推進委員の方が場内を持って回り1周して、最後に実行委員会会長である小金井市長のほうからその火をボートランプ、ボートの舷側なんかにつけるランプであるが、そちらに移して、保管していただいた。この保管した炬火は、9月28日に開催される味の素スタジアムでの総合開会式に、各地区で同じような形で採火をした炬火を1つの火にまとめる、オリンピックでいう聖火、そういう形で炬火・集火式という名前になるが、それに参加することになる。炬火・採火式が終わった後、引き続いて2020年オリンピック・パラリンピック東京招致イベントを開催した。初めに2004年のアテネオリンピック1,600メートルリレーで過去最高位の4位入賞と活躍をされた伊藤友広氏によるオリンピック招致に向けてのスピーチをいただいた。その後は東京学芸大学出身、小金井市が生んだスーパーバンド、エバリーによるミニコンサートを行い、これはバイオリンとクラリネット、ギター、ベース、キーボードといったような構成でやっているグループであるが、兄弟がお二人いて、その兄弟の方は小金井育ちの、本当に学芸大出身で小金井育ちの小金井出身という方である。そのほかの方も学芸大にゆかりのある方、卒業生ということで、コンサートを行った。子供から大人まで楽しめる曲ということでディズニーメドレーとかいろいろなものをたくさん演奏していただいて、中には過去オリンピックの開会式等に使われたような曲も演奏したということで、大変盛り上がったという状況であった。最後は

アンコールの要求にこたえて「見上げてごらん夜の星を」をみんなで合唱したということで、楽しい炬火・採火式になったと思っている。なお、当日の入場者は190名ほどであった。スタッフはNPO法人黄金井倶楽部を中心に90名ということで運営をして、結果的に特段の事故もなく、大成功だったのかと思っている。以上でスポーツ祭東京2013についての報告とさせていただきます。

(本川議長)

ありがとう。何かご質問あるか。よろしいか。

(6)「(仮称)貫井北町地域センターの図書館分室の運営体制について」の答申について

(7)「(仮称)貫井北町地域センターの運営等について」(公民館)の答申について

(8)(仮称)貫井北町地域センター(図書館・公民館)の事業運営について

(本川議長)

では、次に移る。(6)「(仮称)貫井北町地域センターの図書館分室の運営体制について」の答申について、お願いします。

(西田生涯学習部長)

それでは申しわけないが、(6)、(7)、(8)というのはそれぞれ関連しているので、まとめてご説明させていただいてよろしいか。(6)「(仮称)貫井北町地域センターの図書館分室の運営体制について」の答申について、(7)「(仮称)貫井北町地域センターの運営等について」(公民館)の答申について、(8)(仮称)貫井北町地域センター(図書館・公民館)の事業運営についてということ、まとめてご報告をさせていただければと思う。お手元に資料が配られていると思う。1枚目が「(仮称)貫井北町地域センター(図書館)の事業運営について」、2つ目が冊子のようにになっているが、図書館協議会から私どもに宛てられた「(仮称)貫井北町地域センター図書館分室の運営体制について(答申)」、それから「(仮称)貫井北町地域センター(公民館)の事業運営について」というもの、3種類入っているが、これをご参照になりながらお聞きいただきたいと思う。それでは、(仮称)貫井北町地域センターにおける図書館協議会からの答申、公民館運営審議会からの答申及び事業運営についての3つの案件を一緒にご報告させていただき、また、その後の進捗状況についてもあわせてご報告させていただき、平成25年3月28日付けで小金井市図書館協議会に、(仮称)貫井北町地域センター図書館分室の運営体制についての諮問を行った。具体的な内容としては、図書館運営を目的としたNPO法人設立を支援して、同図書館分室運営業務を委託し、市民との連携を図りながら開館日、時間の拡大など市民ニーズにこたえた図書館分室の運営を図りたいと考えるが、配慮、留意点をお示しいただきたいという趣旨の内容で、同年7月19日に答申をいただいた

ところである。また、平成24年9月21日付けで公民館運営審議会に対して、（仮称）貫井北町地域センターの運営等についての諮問を行った。具体的な内容としては、市民協働・公民連携による新たな公民館運営についてどのようにすれば行えるのか、また、どのような課題があるのかお示しいただきたいという旨の内容で、平成25年4月26日に答申をいただいたところである。両答申とも、内容については配慮すべき点、留意すべき点、諸条件などが示されており、最終的には、これらを踏まえて（仮称）貫井北町地域センターが市民の充実した生涯学習の拠点となるよう努力してほしいといった内容で、いずれも資料としてお配りしているの、かなり大部なページ数のある中身になっているので、ごらんになっていただければと考えている。その後、市及び市教育委員会では、この答申を尊重して、平成25年7月26日に（仮称）貫井北町地域センターの事業運営については、NPO法人設立を支援して、事業委託するという事で決定した。その後、7月30日には、公民館においては午後2時からと午後7時からの2回、また図書館においては午後4時から（仮称）貫井北町地域センターにおける市の運営方針等についての利用者説明会と懇談会を開催した。説明会、懇談会では、さまざまなお意見があった。NPOへの事業委託に関しての批判的なご意見などはほとんどなかったようであるが、進め方についてはちょっと拙速ではないかというご意見が寄せられている。その後8月3日にはNPO設立発起人会を開催し、また8月10日にはNPO設立総会を開催して、多くの市民や市民団体等にご参加いただき、正会員になっていただいたのでご報告をさせていただく。なお、8月12日には東京都へNPO設立認証申請を行い、受理していただいている。今後については、これから設立される予定となるNPOと一緒に事業計画や事業予算などを詰めていき、来年の4月1日からのオープンに間に合わせたいと考えているところである。以上で報告を終わらせていただく。

（本川議長）

何かご質問あるか。

（伊藤副議長）

NPOの立ち上げがなされたということであるが、これは図書館と公民館の両方同時に見るということか。

（西田生涯学習部長）

そうである。法人としては同時に見る。もちろん職員はそれぞれである。

（伊藤副議長）

わかった。要するに、1つの、AならAというNPOが両方見るということか。

（西田生涯学習部長）

そういうことである。

(本川議長)

ほかに何かご質問あるか。

では、なければ、このまま、いい滑り出しでいかれるように願っている。

(7) その他

(本川議長)

その他、何かあるか。

(佐野委員)

皆さんのところにチラシを1枚配付させていただいた。主管が小金井市の陸上競技協会が行っている元旦ロードレース大会のご案内である。今まで2回災害復興のチャリティをやってきて、今回、来年の1月1日が3回目になる。3回目は被災地の図書館に図書カードを送るチャリティという形でやらせていただく。チャリティは、図書カードがたしか500円だったと思うので、500円と1,000円というチャリティ料でやらせていただくようになった。今年のチャリティで、裏面にちょっと書いてあると思うが、20万8,100円の寄付をいただいて、岩手、宮城、福島の3県の震災孤児等への支援のために寄付をさせていただいた。その際、3県の知事より礼状をいただいたので、これはチャリティに参加していただいた方へのご説明という形で載せてある。図書館の方に聞いて、本を送れないのかという話をさせていただいたが、なかなか難しいようなので、相手がどういう本が必要なのかということもわからないので、図書カードを送って、必要な図書を購入していただければ、そちらのほうがよろしいかなという考え方から、来年はこういう形をとったので、一応ご紹介させていただく。以上である。

(本川議長)

いろんなところで皆様、ご協力、ご活躍なさっている。協力できるところはさせていただくようにしよう。何かご質問あるか。

(小林委員)

先ほど部長のほうから報告があった貫井北町地域センターの運営についてのことに関連してだが、このタイミングでいいかどうかも考えてはいるが、私は図書館協議会のほうに出向させていただいて、無事答申を終えて、その後、公民館からこの文書が来て、中身を見たところ、ここにNPO法人設立発起人会のお知らせと正会員入会申込書と賛助会入会申込書という封書が届いて、正直言って、これ、公民館の封筒なので、公民館から来たものとは思ったが、事前に知らせもなく、またどういった経緯でこれが送られてきたのか、しかも2通来たので恐らく社会教育委員の皆様と図書館協議会の皆様には送られたのかなという想像でしかなかった。このことを事務局に即問い合わせをすればよかったのかもわからないが、日にちがあまりにも短かったりしたので、説明もないまま、今ご報告いただいたような、順次、順次で8月12日にNPOを申請

されたということであった。図書館の協議会はこの答申については何度も何度も協議をして、ようやくこの最終日にまとめをすることができたこと自体が大変よかったという、簡単な言葉で言うとよかった、安堵したというところであるが、その仕上がった答申のペーパーをいただく前にこの封筒が届いたものであるから、経緯を、この場でいいのかどうか悩むが、ご説明いただいたほうがありがたいのだが、いかがか。

(西田生涯学習部長)

正直申し上げて、こういう諮問をして答申を受けているということについて、社会教育委員の方にまともにきちんと報告したことがなかったかなと思っている。本来ならば、まずそこをきちっと、今こういう答申をもらうために諮問をしているのということをご了解いただきながら進めていって、やるべきことだったということである。あともう一つは、日にちの問題が、非常に最後どたばたとしていたという印象がぬぐえない。これについては、こちらは反省しなければいけないが、平成26年4月1日からオープンするということで、NPO法人の認証を得るまでに4カ月かかるということを知ってしまった。もっと事前に調べてやらねばいけなかったのだが、4カ月丸々かかってしまうということもあり、そうすると公民館、図書館の職員も養成しなければいけない。いきなりあるNPO法人を立ち上げて、そこの人をお願いすると言ったってできるわけがないので、公民館と図書館に2カ月から3カ月ぐらいの研修を兼ねて、いわゆる臨時職員みたいな形で入っていただいて、いろいろな行事を体験していただいて、ノウハウを伝授していくと。そういうことを考えると、12月には法人の認証を受けていないと間に合わない。そうすると、それから逆算すると3カ月、4カ月前ということになると8月上旬ぐらいになってしまう。お盆休み等のことも考えると、8月10日ぐらいに総会を開かないと間に合わない、12日ぐらいに認証審査を出さないと間に合わないということ逆算のほうでわかって、そうすると、そもそも7月で間に合うなと思っていたが、ぎりぎり間に合ったという答申だったわけである。そこで、26日に、公民館は特にそうであるが、答申を受けたその日に図書館とあわせて公民館、図書館の貫井北町分室についてはNPO法人に委託をするのだということを決めて、それから30日にそういう懇談会とか説明会を開かなければいけない、3日に発起人会をやらなければいけないということで、正直、慌ててそういう封筒を出してしまうという状況になった。だから、市の決定が遅かった、遅くならざるを得なかった事情があつて、そういう急なご連絡、事前の周知というか、本来ならばそういう市の決定があつた後にいろいろと皆さんに周知をして、それから何週間後にこういうことをやろうという話になっていくのが普通であるが、その部分が大幅に短縮されてしまったというのが経緯である。したがって、発送していただいたが、受け取った方には、その説明会でも、拙速であると、

非常に早すぎてわけがわからないというようなことを言われてしまう結果になったと考えている。

(小林委員)

そうすると、三者の皆様と同じ封筒がっていたわけである。それにしても、案内文がなく、この3枚いきなり入っていたということは非常に不親切というか、どこに問い合わせをしてくれているのかということもあつたし、図書館のメンバーは恐らく、答申して間もなく、やっぱりこういう方向性だったのかとか、複雑な思いにもなりかねないような出され方をされたのではないかという気がしたので、ここで発言させていただいた。

(西田生涯学習部長)

今後こういうことは十分注意しなければならないと思っている。性急にやってしまったというか、もうちょっと精査をしながら答申の是非等についてもやっておけば、そういうご批判を受けることもなくできたのだろうなと思っている。いずれにしても、時間がない中でばたばたとやりすぎてしまったと思っている。ただ、市民の皆様のお答申をいただかないと市の決定ができないということもあつたので、そこをものすごく短い時間でやってしまったというのがあれで、第二には、そうであつたとしても、もうちょっと懇切丁寧な説明を、もう一枚紙をつけるとか書き込んでおくとかしないと、もらった方は意味がよくわからなかったと。ちょっと反省している。

(本川議長)

ほかにご意見あるか。

市が動くときには疑問点を引きずらないようなやり方をさせていただくことが大切である。出発のときのミスは禍根を残すことになる。今後またこういうことがあるかどうか、何十年かぶりの大きなことだつたのではないかとは思ふが、残念である。

(西田生涯学習部長)

経験不足という面は否めなかつた。

(本川議長)

それでは済まない。行政がそういうことは言えないのではないか。やっぱり真摯に物事をとらえながらやっていたらいいと思うし、せっかく市民協働という、こんなにすごい共同作業というのか、そんなことでミスがついてしまつて、本当にもったいないことだつたと感じる。そのところは、どなたのどういうふうなことだつたかわからないが、時間がないということでは済まないと思っている。今後、運営がうまくいくように願っている。

ほかになにかあるか。

(佐野委員)

一言発言よろしいか。松江市の教育委員会が『はだしのゲン』の漫画を閲覧

できなくしたということがあった。あれは教育長と事務方で決めてしまったというふうに報道ではされているが、市民の方からの抗議というか、そういうものがあって、それに過敏に対応をした結果がああいう形になったのではないかと思う。ここで私が思うには、いろんな方が今本当にいらっしゃるので、市民の方の要望に対して速やかに対応しなければいけないというのは基本だと思うが、ことなかれ主義的な発想から物事を決めていくということに少し注意を払わなくてはいけないのではないかと思う。であるから、市民の方からの要請があったときもう少し慎重に、関係部署といろいろな話し合いをしながら一つの方向性を打ち出していくという形をとるべきではなかったのかと思う。それがマスコミに流れて、連日のようにああいう新聞記事に載せられて、報道もされて、それによって撤回をするというところを見ていると、やはりもう少し要望に対してしっかりした受けとめ方をして、それで判断をするという、そういう姿勢も行政には必要なのではないかと私は強く思った。皆さん各委員の方どういふふうにとらえられたかわからないが、非常に残念だなと私は思った。今度、NPO法人で貫井北町センターというのが来年の4月1日から運営がされると思うが、そういう問題に対してきちんと対応できるような体制をとっておく必要もあるのではないか。市民の意見をそのまま受け入れていくということだけではなくして、受け入れたことによってどういうことが起きるのかということを考えていく必要もあるのではないかと思う。だから、きちっとした説明で、市民の方からの要望におこたえしていくような、そういう姿勢というのにも必要なのではないか。何か受け入れてしまって、決定してから、またそれを覆すという形ではなくして、決定する前にきちっとした対応をしていく必要があるのではないかと思った。

(本川議長)

詳しいことはわからないのでそれ以上のことは無いと思うが、やはり物事をするときに手続きって非常に大事だと思う。それをちょっと飛ばしたり短縮したりすると問題が起きるので、短時間なら短時間なりの手続きの方法というものはあるはずだから、そこら辺のところを今後のことに生かしてやっていただかない。もうやってしまったことだし、これ以上どうのこうのと私どもが言えることでもないから、それはそれとして、現実、うまくともかく、そういうことを踏まえて運営していただくしかないと思うし、お考えいただくしかないと思うので、そのくらいでよろしいか。かなりの方が戸惑ったというのは事実だと思う。お声がどのくらい上がっているかはわからないと思うが、何でこれが来たんであろう、どこへ出したのだろうかということである。だから、その辺のところもすり合わせできていたのかどうか、2通、小林さんのところに行ったというのもすごく不思議な話だし、ただ、名簿でぱっとやってしまったのかというところである。そんな余計なことであるが、これから気をつけてうま

く運営していただきたいと思う。

ほかに何かあるか。

(天野生涯学習課長)

1点よろしいか。今日配付させていただいたもので体育協会から市民体育祭のご案内があるかと思う。そこにも記載があるかと思うが、今年度、剣道大会のほうに小金井市の友好都市である三宅村のほうから三宅村剣道連盟が大会に参加するという形になっているので、一応ご報告させていただきたいと思う。

(本川議長)

皆様のところに資料を置くということは、出ていただきたいということか。

(天野生涯学習課長)

一応開会式についての参加のご案内であるが、先ほど科学の祭典の話の中にもあったとおり、時間が重複するところがあるので、8時からの開会式という形なので開会式そのものは時間がずれているが、科学の祭典の準備等があるとちょっと参加できないのかと思っているので、しょうがないかと思っている。

ただ、私のほうは、三宅村が来る関係で前日のお迎えから当日の竹芝までを車で同行する形になってしまうので、科学の祭典のほうに顔を出せる時間が非常に短くなってしまうかと思うので、その辺だけご了承いただきたいと思う。

(本川議長)

ご苦労さまである。実は去年、この開会式に行ってみた。30分ぐらいいて、去年は上水公園のところであった。

(天野生涯学習課長)

今年から体育館に変更になった。この変更になった理由であるが、今までも雨が降った場合に備えて体育館を仮押さえをずっとしていた。その辺で天候によって2カ所押さえなければいけないという、ちょっと効率が悪いというところが1点あったのと、炎天下で外でというのもあって、いろいろな事情で今回から雨でも対応できる総合体育館一本に絞ろうという形になっている。

(本川議長)

一応、社会教育委員の会議のメンバーは参加になっている。見ていただくとわかるが、役員にはなっているので、私も1回、去年、出させていただいたところ、立派な開会式であった。お出になられそうな方は、どうぞ出てみていただきたい。

あと、報告とかあるか、出向していた方。図書館等、ないか。この後、小林さんは、図書館は終了か。

(小林委員)

もう終了。

(本川議長)

樹さんは。

(樹委員)

私のところは、会議は年度毎なので。

(本川議長)

まだ大丈夫。

(本多委員)

出向ではなくて、その他でいいか。お月見のつどい。後ほど、茶券もあるので、行く方はぜひお願いします。

(小林委員)

図書館協議会から報告させていただく。今年度、第5回の図書館協議会を7月19日午前10時から12時、前原暫定会議室で行った。この日は4カ月間の諮問に対する答申の最終日ということでもあり、5回の協議会と4回の小委員会で、松尾会長が毎回毎回案を取りまとめていただきながら、その審議を行きつ戻りつという場面の最終日であった。この日も土壇場まで、時間延長か日にちをまた改めて設けていかないと答申をすることができないのではないかとということで、本当に時間ぎりぎり、最後は会長、会長職務代理の浦野さんと2人で、文言の整理をしていただくということでまとめていただき、お手元の資料になった。本当に、無事終えたことと、また、この間、藤沢にある辻堂図書館にも視察に行かせていただき、実のある、大変重く大きなテーマであったが、このことに携わらせていただき、本当にありがたいと思った。もう一つは、科学の祭典についても、昨年同様の言の葉の樹という準備について話をした。答申があったものであるから、大きな準備は、新しいことはできないだろうということもあり、前年同様のことで、チラシに載せてあるテーマで、子供から大人まで、図書館協議会委員が勧める本の紹介と、昨年、言の葉の樹の葉っぱに書いていただいたものなども、そのまま張らせていただくという方向で話を終えた。最後に、1期2年間ということ、皆さん終了の、3期6年の方もいらっしゃったので、一言ずつ感想をとということで、無事、この日をもって終えることができた。報告が遅くなった。以上である。

(本川議長)

それでは、まだ少し時間があるので、それこそ、期を終えるに当たって、ご感想などいただければと思う。

(小林委員)

小林である。市民公募で3期6年、会議は出席をさせていただき、ブロック研修会等ではやむなく休むこともあったけれども、社会教育は何をするんだろう、どういう意識でいけばいいんだろうということから、本当にこの6年間は、少し緊張感もありながら、また、目を向ける場面が、子供たちだったり、地域の方々だったりというふうに、なる前と期間中というのは、少し自分の意識が変わった。力を尽くせたかどうかということは、まだまだ、これができたとい

うことが言えない分だけ申しわけない思いであるが、きょう最後の会議になったので、これまで大変お世話になりありがとうございます。

(佐野委員)

私も今期で、来期は社会教育団体からの推薦がとれず、違う方が体育協会のほうから推薦で社会教育委員になる。ちょうど私は、吉池前社会教育委員の後に、任期を残した後になり、現実には2期4年はやっていない。あと2年間、期6年と聞いていたので、あと2年携わらせてもらえるのかと思っていたが、違う方が社会教育委員になる。私は今、健全育成の、この間中央地区の会長になり、子供をはじめとして青少年という形になるが、社会教育委員でいろいろ感じたこととか、そういうもの、非常に勉強になったので、これからそういう分野でも活動させていただきたいと思っている。私は、基本計画に合わせるような形の計画をつくるように、来期はなると思っていたので、いろいろ、小金井も財政が逼迫しているので、同じようなものを行っている部署があるのであれば、それをまとめて、もう少し簡素化して、それが市民のためになるようになるにはどういうふうに分類をしていったらいいのかということ、いろいろいただいた資料をもとに組み立てていたのであるが、そういうことは、社会教育委員の中では活用できないのであるが、地域とかそういう中で活用できるのではないかなと思っている。4年に満たなかった期間であったけれども、非常に勉強するところが多く、いろんなどころに行き見てきたし、そういう点では、非常によかったかなと思っている。であるから、今度の科学の祭典が9月8日で、最後の任期の日になるので、元気に楽しくお手伝いをさせていただきたいと思っているので、よろしく願います。どうもありがとうございます。

(田尻委員)

今年で、小金井に来てから10年目、その中で、6年間、社会教育委員に携わらせていただいた。ただ、ここ2年ぐらひは、校長研修会と日程が重なっていて欠席が多い。その中で、学校として、学校の現状、子供たちの様子、あるいは課題について、本当に生の話を、この場で話をさせていただきたいと、そういったことがここ2年間できなかつたのは、本当に悔やまれてしょうがないというのはある。一番印象に残っているのは、小金井でブロック研修会があり、農工大でのことが一番残っている。一緒に仕事をさせていただき、発表したことが記憶に残っている。学校は、いかに地域の中で存在しているというか、地域あつての学校ということは、ここ10年間、痛切に感じている。地域の中の学校はあくまでも1つであるので、いろんなどころでつなぐ、結びつけるというところで、社会教育委員の大切な役割ということを感じた6年間であったと思う。あと、学校連絡委員、社会教育委員の方が委員として何校か、3校か、そのこともとてもうれしく思うし、さらにもっと広がっていければいいかと思う。学校側から提供するだけでなく、学校の中に入っていたら、今の学校

は本当にこういうふうになっているんだ、と実際に見ていただくことも、本当に大切なことである。今度、二小の宗像校長が、校長会ということで委員のひとりとして参加させていただくので、かわいがっていただいて、現場のいろいろなお話を提供できればと思う。ここ2年間は、十分な働きができずに大変申しわけない、この一言であるが、いい経験をさせていただいた。ややもすると、学校の中であるので視野が狭くなりがちなところを、社会教育委員に就任してから本当に地域の方々の子供に対する思いの強さを肌で感じたし、社会教育委員が本当にすばらしい力を発揮しているということ、この6年間で感じたところである。このところは、教員に伝えてはいるところであるが、まだまだ伝えきれていないところがあるので、今後、社会教育のすばらしい働きを、現場の教員にもっともって伝えていかなければいけないと思う。6年間本当にありがとう。

(本川議長)

ありがとう。では樹さん。

(樹委員)

置いてきぼりにされるような寂しさを感じているが、あと2年間、頑張らせていただこうと思っている。ただ、本当に社会教育委員にとっては、頭脳でもあり、中核でもあった皆様がどんどん卒業されてしまうんだなというのを今実感し、中村さん、どうしましょうみたいな、本当に、これから2年間が本当に大変な2年間になるのかと思っていたので、不安でいっぱいではあるけれども、しっかりと新しい皆さんと呼吸を合わせて、また、事務局の皆様とも呼吸を合わせて、2年間、あとをしっかりと頑張ってもらいたいと思う。本当にお疲れさまであった。ありがとう。

(本川議長)

ありがとう。頑張ってください。中村委員、どうぞ。

(中村委員)

私は、公募枠で2期務めさせていただいている。私も大学で社会教育というものを勉強させてもらって、たったの4年間であるが、そのころの社会教育の考えと、今の社会教育を取り巻く状況と、かなりさま変わりしているなというのが、2期4年間務めさせていただいて、感じたことである。そういう中で、私自身、かなりいろいろ勉強させていただいたかと思うが、ただ勉強させていただいたにもかかわらず、逆にインプットはしつつ、地域や市に対してどれだけアウトプットしたかということになると、非常に疑問符がつくわけである。そういう反省点はあるけれども、私としての財産は、すばらしい皆さんとこの4年間を共有できて、非常に幸せであった。それが私にとって、その一言に尽きると思う。非常に残念ではあるが、これから同じ市民として、またいろいろお世話になるかと思うけれども、今後とも長いお付き合いをお願いできればとい

う思いが強くなる。また今後ともよろしく。いろいろお世話になった。ありがとう。

(本多委員)

大変、皆様にはお世話になった。ありがとう。私もあと2年残るようにと団体から推薦されてしまった。本当にこの4年間で食わず嫌いというのをなくして、興味のあるものに突進していく形をとったなと思う。今まで自分の中には、こういう世界には入らないで済むのではないかという消極的なところがあったが、佐野委員ではないが、あちこちの情報の入るところに顔を出して、いろいろ見聞きをした。そしてこの社会教育委員の会議にて、不思議でわからないときには愚かな質問をしたり、本川議長にも数々教えてもらった。中村委員が今言われたように、皆様のいろんな心構えと考え方まで見せていただいたことが、私には4年間、すごい財産になったなと思っている。やはりちょっと寂しい。これからは月に1回お会いできないかもしれない。でも、どこかで勉強会のような形で継続できて、ぜひ私も、まだ入っていない分野を見せていただきたい。茶道をしていると、常識はあるが社会音痴というか、違う世界にいるような感覚もあるのです。私の仲間にも情報を提供したり、パイプ役のような役割をこれから2年間やっていきたいと思う。ぜひ皆様のパイプ役で、今後続けさせていきたいと思っている。よろしく願います。

(松田委員)

松田である。P連のほうから出向して、私は一番短く、1期というか2年間であったが、最初の1年は、社会教育とは何をするんだろうと、それがずっと1年間、自分の中で歯がゆい思いをしながら会議に出て、わけのわからないまま1年が過ぎ、やっと少し、こういうことなのかなというのがわかってきたなと思ったところに終わりであるが、皆さんと、素晴らしい人材と出会えて、また、これが私の財産になったかと思っている。ありがとう。

(伊藤副議長)

もう1期おやりになるのか。

(松田委員)

私はもうおしまいである。

(伊藤副議長)

おしまいか。では私が次にかわって。月日は早いもので、あっという間の6年間であったが、非常に印象に残っていることは、三者で何かやりましょうとあって、まず科学の祭典を立ち上げたということと、それとあわせて、もちろん本川議長が前面に出ておられるが、例の提言のまとめというか、これも三者でまとめ上げていこうということで、それが非常に印象に残っている。これも決して1人の力ではできることではなくて、多くの方々の一人一人の力は小さかったかもしれないが、それが10人、20人、30人と集まることによって

大きなパワーになって、これがひとつ、大きな渦潮みたいな形になって、新しい次の、大げさだが、切り開くような原動力になってくれればと願っている。私個人的には、あまりいい委員ではなかったと思っている。一応、会議には出席してはいたが、物忘れが甚だしく、書いているのだが、全部忘れてしまう。忘れるから書いているのだが、でもだめである。読み返さないからだめである。

今後は、せっかくブロック研修でもいろいろ教わった話の中で非常に記憶に残っているのが、府中の「学び返し」という言葉である。何とか早く国語辞典に載せてあげたいと思っていて、この間、ある本当に小さな、学校の先生方を対象にしたような新聞社の方とたまたまインタビューする機会があり、そのときに、実は私は今、この歳になって地域貢献というか、何かやっていきたい、そのためには子供たちに学び返しをしたいんだと。自分がかつて教わったことを、今度は子供たちに伝えていく。教わったイロハをそのままイロハとして伝えるのではなく、今の時代に合った、あるいはこれからの時代がこうなるであろう、そういう時代にマッチングしたような形のを学び返しという形で子供たちに伝えてあげることができればということで、今こんな活動をしているという話をしたことがある。新聞記事にはならないが、その方は大変、「そうなんですか、学び返し」と、その言葉そのものに反応を示してくださり、何とか国語辞典に載ってくれれば、私が生きている間に何とかならないかなと、そんなふうに思っている。本当に長い間、皆様のお力をいただき、無事、務め上げることができた。本当に皆様のお力とご協力だと思っている。本当にありがとう。

(本川議長)

それでは、さっき私は少し話させていただいたので、事務方から一言ずつ。

(天野生涯学習課長)

私は今年の9月1日に生涯学習課長に着任しているので、間もなく1年たつというところで、短い間しかお世話になっていないが、社会教育の推進についてご尽力いただきありがとうございます。それと、一番思ったのは、私が着任した後、それ以外もであるが、事務局の異動についてまで歓送迎会を開いていただけるような審議会は、ほかに今まで経験がないので、そういう温かいところを、代がかわっても続けていただければうれしいと思っている。今回、10人中6人がかわってしまうということで、半分以上かわってしまう。中でも、会議を引っ張っていただいた正副議長が同時にいなくなってしまうということで、今後非常に心配なところもあるが、今後、新しい委員の方で協力して、またいい会がつくっていかれればと思っている。ここでご卒業される方については、どうもありがとうございます。ここを引き続きお願いしていただける方については、今後もよろしく願います。定例会としては本日最後になるが、どういうめぐり合わせか、任期の最終日が科学の祭典の日にあたっているのです、そこまではご協力をよろ

しくお願いしたいと思う。

(西田生涯学習部長)

私も1年6カ月ということで、この間、考えてみると、皆様、3期やったら6年ということになるが、部長はかわる、課長はかわる、担当者がかわるということで、非常に事務局の異動が多かったかと思っている。課長に至っては、部長もその間に3人目ということであるし、課長も3人目、事務局もここでかわってしまったかしているということで、なかなかご不便とご迷惑をかけてしまっているかと思っている。先ほど、本川議長が一番最初のところにおっしゃったが、ようやくここで人事的なものも落ち着いてきたのかなというところがあったけれども、まだわからない。何がどうなるか、小金井市も財政逼迫ということで、人のいろいろな入り繰りというの、ここ最近、非常に激しくやっております、なかなか同じ職場に長くいてということができなくなりつつある。社会教育、生涯学習の分野では、なるべくそういう方を残してほしいという考え方は持ってはいるが、なかなかそうもいかず、2年、3年でかわっていったりする現状となっている。そういう意味でも、逆に言えば、社会教育委員の皆様方のご提言、ご意見というのが、どんどんかわっていく事務局にあって、非常に大きな力を発揮するものかと思っているので、これまでご尽力いただいた方にはお礼を申し上げるとともに、その伝統を引き継いで、また引き続きお受けいただいている方には、またよろしくお願いしたいし、また、新委員となられる方にも、今までのいい伝統を継ぎ、いわゆる、本来事務局がきちっと核になってやっていくというのが当たり前であるが、もう一つの核として、よく議会と市長で言われるのが車の両輪、別の方向を向かないで、同じ方向を向いて前に進んでいくという形で、ぜひ、お力添えを引き続きいただければと思う。今までありがとうと言うとともに、またこれからもお願いしたいと思う。ありがとう。

(本川議長)

伊東さん、何か一言。

(事務局)

4月から生涯学習課に配属になり、この中で一番短いお付き合いになってしまったと思うが、右も左もわからないまま、皆様には本当にご迷惑をおかけしてばかりであったが、議長、副議長をはじめ、皆様の温かいお言葉に、いつも助けられていた。やっとな皆さんの顔と名前を覚えられて、自分のことも覚えていただいて、すごくうれしいと感じたところでお別れで、本当に寂しいが、またこれからもどこかにつながりが続いていけばかと思っている。またこれから引き続き、来期も継続される委員の方々につきましては、引き続きよろしく願います。本当に短い間であったがありがとう。

(本川議長)

頑張っ、一生懸命やってくれていた。最後に私、6年間というか、4年間の議長は長かったという感じがしているが、それなりに時間をとられたし、いかげんにはできないと、もちろん、皆さんもそうであろうけれども、非常にこの件については、私の生活の中で大きな部分を占めていた。解放されたので、ほっとしている。実は私の推薦母体である国際ソロプチミスト東京ー小金井が、今期20周年を迎える。今現在、7月1日から会長をさせていただいている。周年記念事業としての啓蒙事業は終わっているが、これから式典に向かって取り組まなければいけないことがたくさんある。そのための時間が確保できたことは幸いである。社会教育委員の会議の、ますますの活躍を祈念する。

以上